令和元年度　国立三瓶青少年交流の家　地域力向上事業

自然体験＆運動あそび　さんべでお泊り保育　「家族とごそう冬の三瓶！！」

１　趣　旨

○三瓶青少年交流の家でのお泊り保育を通して、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的生活習慣を身に付けるとともに、子どもたちの自立性や協調性を育む機会とする。

○自然体験や運動遊びの活動プログラムを通して、子どもたちの豊かな感性を育むとともに、健やかな体づくりを促す機会とする。

２　事業の概要

（１）期　日　　令和２年１月１２日(日)～１３日(祝月)

（２）場　所　　国立三瓶青少年交流の家

（３）協　力　　島根県立三瓶自然館サヒメル

（４）参加者　　８家族２８名

（５）講　師　　平野　勝久 氏（さんべクライマーズ　ボルダリング）

　　井上　雅仁 氏（島根県立三瓶自然館サヒメル　冬の自然散策）

（７）日　程　※雪なしの場合

1/12（日）	10:30 入所・受付	11:00 はじめの会	12:00 昼食・休憩	13:30 チャレンジウォールキッズ（親子でボルダリング体験）	17:10 夕べのつどい	17:30 夕食・休憩	19:00 カプラ	20:30 入浴	21:30 就寝準備 就寝
1/13（祝月）	6:30 起床・身辺整理	7:30 朝食・掃除 荷物整理	8:40 退所点検	9:30 冬の自然散策	11:30 おわりの会	12:00 昼食	13:00 解散		

３　事業の内容

①プログラムデザインと企画のポイント

本所は、平成２８年度から３年間にわたり、地域力向上事業として幼児期の遊び・運動プログラムの開発、研修会等を行い、「遊んで身に付く３６の基本的な動き」を意識したプログラムの普及に努めてきた。また、アスレチック「森のわんぱくひろば」、キッズ用ボルダリングを備え付けた「キッズルーム」の施設を整備した。今年度は、新たな展開として、これらの施設とプログラムを、幼稚園・保育園のお泊り保育での活用につなげるため、幼稚園・保育園を対象とした１泊２日以上の宿泊事業を実践することで、お泊り保育の利用促進を図った。

実際にお泊り保育を実施している幼稚園・保育園には、プログラムの提案、プログラム実施時の打ち合わせや指導を丁寧に行う等、幼児が多様な体験ができるように支援を行った。また、島根県大田市、出雲市の幼稚園・保育園に広報活動に出掛け利用促進を図った。その結果、出雲市内の保育園の保護者から、家族で泊まり体験活動を実施したい要望があり、事業を進めることになった。

②運営のポイント

１月の実施となるので、平成２８年度に開発した「イグルー（バケツかまくら）づくり」をはじめとした、雪を想定したプログラム内容を考えた。同時に、近年の雪不足の状況から、雪がない場合を想定したプログラムについても、冬のプログラムの充実につながるように、参加者が満足できるものを考えた。実際には、雪がなく、「ボルダリング」「カプラ」「冬の自然散策」を体験することになった。

ボルダリングは、「キッズルーム」にある幼児向けボルダリングを含めて２カ所活用し、親子で楽しめるように設定した。幼児も楽しめるよう、掲示物を工夫したキッズルームでは、子どもたちが、繰り返しボルダリングを楽しみ、研修指導員の指導で、大人も本気になってボルダリングにチャレンジした。

冬の自然散策は、島根県立三瓶自然館サヒメルの学芸員を講師に施設周辺を散策した。冬といえども、解説を交えて、木の実や落ち葉、木の葉等、多くの発見があった。発見したものを持ち帰って、アクリル絵の具で色を付け、エコバッグにスタンプすると、世界に１つのオリジナルバッグが完成した。参加者は、手に絵の具をつけて、作品づくりに熱中していた。

４　参加者へのアンケート結果

（１）アンケートの集計（%）

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	88	12	0	0
職員の対応	100	0	0	0
運営面	100	0	0	0

（２）参加者の声

・普段できない体験をたくさんさせていただき、親子とも楽しめました。ぜひまた、遊びに来たいと思います。

・自然と触れ合ったり、たくさん体を動かして遊んだり、親子でゆっくり過ごせとても楽しかったです。いつも家事に仕事に追われる毎日で、なかなか親子で関われていないなと思っていたので、とても良い機会でした。

・子どもたちが楽しく遊んだり、進んで自分のことをしたり、お掃除したりする姿を見ることができてうれしかったです。みんなで自然の中を歩くのも楽しかったです。

５　成果と課題

≪成果≫

・１泊２日以上の宿泊事業を実践するうえで、大田市、出雲市の幼稚園・保育園及び保護者への広報を行った。そこでなかなか幼稚園・保育園がお泊り保育を行うことが難しい実態を見聞きすることで、幼稚園・保育園が何を求めているか、宿泊でどんな活動がしたいかなど、今後につながる情報収集ができた。

・今回の事業で、「キッズルーム」の幼児用ボルダリングを整備・活用することができ、今後、所内プログラムとしての活用の幅が広がった。

≪課題≫

・今回の事業では、保護者への啓発を進めたため、指導者へのお泊り保育のモデル実践のための研修につなげることができなかった。今回の事業を広めるとともに、次年度以降の研修につなげていきたい。

・今回の事業で「ボルダリング」「冬の自然散策」を行った。ボルダリングも自然散策も講師を招いた。専門分野ということもあるが、これからをプログラムとして広く団体に受け入れていくことになれば、職員のプログラムに関する専門性を高める研修などで、資質向上に努める必要がある。

・開催時期については検討が必要である。冬のプログラムを行うのが難しいということもあり、次年度の開催時期については、なるべく自然に触れ合うことができて、運動プログラムを取り入れることができるように利用状況や季節を考え、検討していきたい。

ボルダリング

冬の自然散策

（担当：事業推進室長　田邊　治生）